ニューモラル 心のクローバー

週初めのミーティングで「学び」と「気づき」をシェア
毎日の生活の中で
こんなことを意識してみませんか？
メモ欄は週間目標の記入等にご活用ください

社員教育へのご活用は
こちらから

第1週

信用される日本人

以前、Ｔさん夫妻が初めて海外旅行に出かけたときのことです。

入国審査を待つ間、前に並んだ人たちが係官からあれこれと質問を受けているのを見て、片言の英語しか話せないＴさんは不安になってきました。ところが、自分たちの番になって、パスポートを差し出すと、係官は「ジャパニーズ？」と言ったきり、それ以上何も質問せず、簡単な荷物検査だけで通してくれました。「イエス」と言っただけのＴさんは拍子抜けしましたが、このとき、自分たちが日本人として国際的に信用されていることを感じたのです。

普段はあまり意識しなくても、私たちは自国の保護下にあります。時には国の恩恵に思いをはせてみませんか。

MEMO メモ

第2週

世界が認めた日本人の生き方

明治期に来日したアメリカ人の動物学者エドワード・モース（1838～1925）の言葉です。

「善徳や品性を、日本人は生まれながらに持っているらしいことである。衣服の簡素、家庭の整理、周囲の清潔、自然およびすべての自然物に対する愛、あっさりして魅力に富む芸術、挙動の礼儀正しさ、他人の感情についての思いやり……これらは恵まれた階級の人々ばかりでなく、最も貧しい人々も持っている特質である」（『日本その日その日（一）』平凡社）

モースに限らず、当時の日本を知る多くの外国人が、日本人の心のあり方や生き方を賞賛しています。今を生きる私たちは、先人の心を胸に刻み、社会、そして世界へと臨んでいきたいものです。

MEMO メモ

第3週

仕事と生き方はつながっている

働く環境は時代によって大きく変化するものですが、人はいつの時代も、仕事の中に「働く喜び」を見いだし、誇りある生き方をしたいと願うものでしょう。

他人から見れば恵まれた仕事でも「面白くない」と不満を漏らす人もいます。一方、与えられた仕事に地道に取り組み続ける中で、仕事に対する愛着が生まれ、これを適職と感じるようになる人もいるでしょう。その違いは、仕事をどのように捉えるかにあるといえます。

古来、日本人は誠実に生き、誠実に仕事をしてきました。現代の日本の高い生活水準は、先人が誠実に仕事と向き合ってきた賜物です。今、私たちがそうした誠実さを失えば、日本は衰退の道を歩むことになるのではないでしょうか。

MEMO メモ

第4週

愛国心と国際心

カナダのバンクーバーには美しい日本庭園があり、その中には大きな石灯籠が建っています。そこに「新渡戸稲造（にとべいなぞう）1862−1933年　国際間の善意の使徒」という意味の銘板がかかっています。

国際連盟の事務局次長として活躍した新渡戸稲造は「愛国心と国際心とは、立派に同時に両立し得るのみならず、国際心は愛国心の延長である。愛国心なしに国際心はあり得ない」と述べ、互いに国柄を尊重することの大切さを説きました。

私たちが外国人と接するとき、一人ひとりの言動によって「日本とはこういう国だ」と見なされることになります。日本の文化をよく学ぶとともに、世界の国々の文化や習慣も大切にして、広い人間愛を持って交流する必要があります。

MEMO メモ

季節の植物 ≫ 藪椿（ヤブツバキ）

Illustration by Kyoko Kishi